中野区モデル「若者会議」５つの提言

令和4年度　中野若者会議 「若者会議のあり方」提言書

更新：2023年2月16日
作成：若者会議1期メンバー

この提言書は、2022年7月～2023年2月にかけて若者会議第1期メンバーが作成しました。

P2	目次
P3	①構想プロセス
P4-20	②先進事例研究
P21-37	③中野研究
P38-41	④中野区モデル「若者会議」構想のポイント
P42-45	⑤中野区モデル「若者会議」構想ワークショップ
P46-58	⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言
P59-60	⑦中野区モデル「若者会議」の実現の中期ステップ
P61	あとがき

①構想プロセス

中野若者研究 × 先進事例研究

▼

若者会議での議論

▼

提言書

NO.	日付	分類	内容
1	7/31 8/28	オリエン	プロジェクト概要理解・ワーキンググループの結成
2	9/18	オリエン	テキスト「わかもののまちのつくりかた」確認
3	9/18	事例研究①	尼崎市　片岡センター長
4	9/26	オリエン	海外事例　両角達平さん
5	10/16	事例研究②	山形県遊佐町　少年議会　齋藤愛彩さん
6	10~11月	事例研究③	担当ごとに7自治体の調査
7	10/16	中野研究①	中野坂上フィールドワーク（なかなかの・中野東図書館）
8	10/27	中野研究②	中野区子どもの権利委員会　相川梓さん
9	11/20	事例研究④	尼崎市　教育次長　能島裕介さん
10	11/20	中野研究③	中野ハイティーン会議　チャレンジグループ　ヒアリング
11	12/1	事例研究⑤	燕市役所　地域振興課
12	12/27	中野研究④	若者会議メンバー　アンケート
13	12/27	中野研究⑤	一般向け　アンケート
14	1/15	議論	若者会議最終回でのワークショップ

②先進事例研究

テキストを参照しながら
先進地域を選定

『わかもののまちのつくり方』

発行／NPO法人わかもののまち（2018年）
協力／日本版ローカル・ユースカウンシル検討会議 委員

［委員］
安部 芳絵（工学院大学 准教授）
川中 大輔（シチズンシップ共育企画 代表・ 龍谷大学 講師）
両角 達平（日本福祉大学 社会福祉学部 専任講師）

［全体アドバイザー］
宮本 みち子（放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授）

②先進事例研究　全国７自治体を研究しました。

日付	分類	内容	調査方法	調査担当
9/18	事例研究①	尼崎市立ユース交流センター　片岡センター長 （ユースカウンシル Up to you! 指定管理者）	若者会議へのゲスト登壇	けいちゃん
10/16	事例研究②	山形県遊佐町　少年議会　齋藤愛彩さん	若者会議へのゲスト登壇	ふくちゃん
10～11月	事例研究③	新城市　若者議会	行政資料等の調査	あゆみん
10～11月		多摩市　若者会議	行政資料等の調査	みき
10～11月		川崎市　かわさき若者会議	行政資料等の調査	けいちゃん・あゆみん
10～11月		三鷹市　Mitaka Machikoe!	行政資料等の調査	しゅう
11/20	事例研究④	尼崎市　教育次長　能島裕介さん	若者会議へのゲスト登壇	けいちゃん
12/1	事例研究⑤	燕市役所　地域振興課 （つばめ若者会議　担当課）	若者会議へのゲスト登壇	あい

②先進事例研究　整理方法について

７自治体を
３つの観点で
整理しました。

１．目的：自治体によって異なる。
都市部と地方で大きく差がある。

２．形式：大きく２パターンに分類できる。
※詳しくは次のページへ

３．年代：対象年代は10代～20代を中心としながら、全年齢へ広がっている。

②先進事例研究　整理方法について

２．形式：大きく２パターンに分類できる。

「議会型」

新城市を代表例として、実際の議会を模して
予算や提言の仕組みがある形式。

「コミュニティ型」

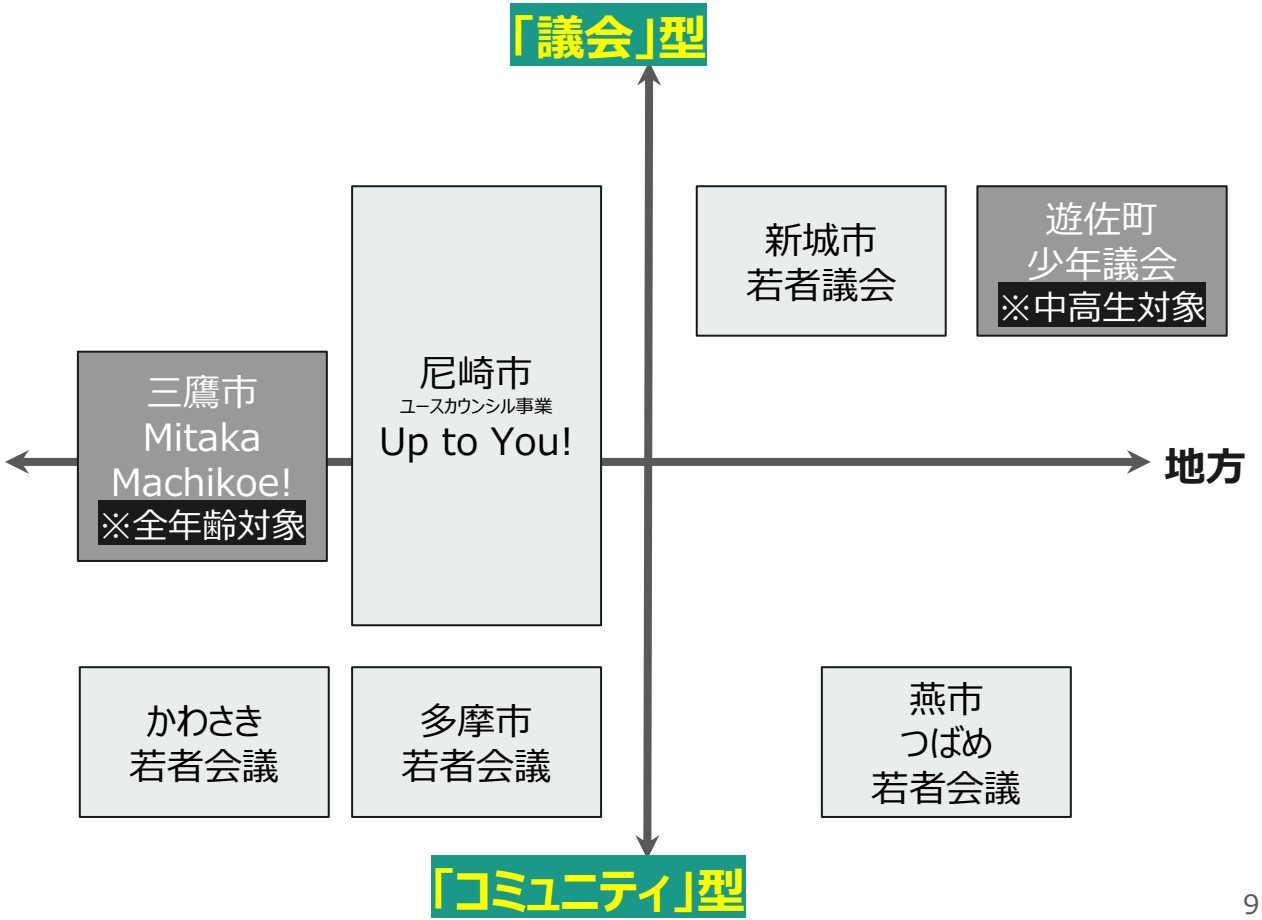
多摩市を代表例として、地域で活動・交流しやすい
機会やサポートの仕組みがある形式。

②先進事例研究　整理方法について

	議会型	コミュニティ型
特徴	・最終的に政策提言/政策立案を行う （予算の有無は自治体による） ・議長や代表といったものを置きながら組織化されていることが多い	・何らかのアクションにつなげるものが多い ・役割が明確化されているというよりもフラットな組織体である
目的	・子どもの権利保障 ・市民参加教育 ・政策決定への若者の声の反映etc…	・住んでみたい街を若者自身の手で創る ・若者同士がつながる場を作るetc…
メリット	・選挙以外の手段で自治体に直接声を届けることができる （マニフェスト以外の内容を提言できる）	・気軽に誰もが参加しやすい雰囲気 ・行政の手を離れて発展する可能性がある
デメリット	・少し内容が固いので、誰もが参加しやすいかというと微妙…？	・より魅力的な街へという意味合いが強いので、課題解決に対しての力は弱い？

②先進事例研究

７自治体を中野若者会議のメンバーが調査しまとめました。



新城市
若者議会

遊佐町
少年議会

②先進事例研究（１）地方×議会型

	参加対象	きっかけ	目的	活動内容	主催
新城市若者議会	概ね１６歳～２９歳で市内に在住、在学、在勤の若者。委員募集は例年２月上旬から３月上旬で応募多数の場合は書類選考 ※市外委員あり	2012年、欧州で行われたニューキャッスルアライアンス（世界の新城）会議に新城市の若者が参加。そこで若者のまちづくり参加が盛んである欧州の若者と交流をした結果、新城市の若者は、自分達はまちのことを考えたこともなかったと大きなショックを受ける。帰国後その若者達自らが「新城ユースの会」を立ち上げた。そういった活動を目にした当時の市長が、若者のまちづくり参加が新城市には必要だと考えたことで導入された。	「新城市若者条例・新城市若者議会条例」に基づき、平成27年4月1日に設置されました。若者が活躍できるまちにするため、若者を取り巻くさまざまな問題を考え、話し合うとともに、若者の力を活かすまちづくり政策を検討しています。予算提案権を持ち、予算の使い道を若者自らが考え政策立案します。さらにそれを市長に答申し、市議会の承認を得て、市の事業として実施されます。こういう一連の仕組みやサイクルが、日本で初めて条例で定められています。新城に対するさまざまな意見・想いを持つ若者同士、新城について語り合いながら「新城のこれから」について若者の視点で考えます。若者が活躍できるまちを目指して、新城市では若者の一歩を応援します。	主な会議が２種類。 ・全体会：全員集まって政策について考える会議。 ・委員会：各テーマの担当に分かれ政策を考える会議。 最終的に市長答申、これまでに検討を続けてきた政策を議場にて発表して市長に提案。提案後３月に開催される市議会の定例会において提案した事業予算案が承認されれば次年度に市の事業として実施され若者の声がカタチとなる。	新城市役所 市民自治推進課 自治推進係
遊佐町少年議会	遊佐町在住の中高校生及び遊佐町に通学する高校生とする。対象者はだれでも、少年町長及び少年議員の選挙権と被選挙権をもつ。また、少年議員は、自らの政策立案権と少年町長の議案審議権を有する。	事業が開始となった2003年当時、イギリスのミドルズブラ青年市長・区長の制度を参考に事業を導入した。	・厳しい状況を乗り越えて、地域の中心となる若者の育成 ・若者の活躍の場を創る為の環境づくり ・若者の力、意見を取り入れたまちづくりの推進 (1) 若者たちが、自らの代表を直接選び、政策を実現していくことで、学校外で民主主義を実際に体験・学習することにより社会の構成システムを学ぶ。 (2) 中高校生等の未来を担う若者の視点から、町政への提言や意見を町が積極的に採り上げることを通じて、若者の町政参加を促す。 (3) この事業に関わるすべての関係者が、若者の町政に対する意見に学び、併せて若者たちが、社会システムや民主主義を学ぶ、相互教育の場とする。	遊佐町の若者の代表として「中学生・高校生の政策」を議論し決めていきます。町では、その政策を尊重し実現を図り、また少年町長と少年議員は、自分達の決めた政策を実現。	遊佐町教育委員会 教育課 社会教育係

遊佐町
少年議会

②先進事例研究（１）地方×議会型

遊佐町少年議会　斉藤愛彩さん（10/16登壇）

②先進事例研究（２）地方×コミュニティ型

燕市
つばめ
若者会議

	参加対象	きっかけ	目的	活動内容	主催
つばめ若者会議	申込時に高校生から40歳までの方（出身地域は問いません。市外の方も大歓迎）	「まちづくり市民意識調査」の結果、若い人たちの満足度は「どちらでもない」という回答が多く、若い人たちがまちに対して考えていることがわからないから、といった背景がある。 初年度のつばめ若者会議ではまちの課題の掘り下げや、地域の魅力と資源の見直し、他地域への視察などを行いながら会議を繰り返し、「20年後の燕市はどんなまちを目指すべきか？」を話し合い、具体的なビジョンへと展開していきます。その結果出来上がったのが「つばめの幸福論」という、ビジョン。この幸福論では、6つの理念と、3つの課題、9つのアクションプランと取り組むチームが明示されるとともに、幸福論がまとめられるまでの若者会議の経緯が「つばめ若者会議のつくり方」としてまとめられています。	燕市を楽しくしたいと思い、まちのために必要なこと、大切なことを創造し、主体的に動こうという気持ちを持った若者が集まり活動しています。 ・理想とする燕市の将来像を実現するためのアイデアを考える ・若者のまちづくりに対する意識の醸成 ・若者同士の交流による「つながり」の強化	【燕市役所まちあそび部】 燕市内在住または市内高校に在学中の高校生が対象のチームです。大人(地域の方や市役所の職員)と協力して、まちが持っている“モノ”を使った活動「まちあそび」を行います。まちあそびに正解はありません。気になったこと、やってみたいこと、やってみないとわからないことにどんどん挑戦し、あそびを通じて、このまちの新しい発見をしていきます。 【燕（えん）ジョイ活動部】 自由な発想で話し合い、メンバー自らが感じたことを楽しみながら様々なアクションを企画し実行していくチームです。参加対象は18歳から29歳までの次代を担う若者(学生・社会人)で、「自由でいいんです。」を合言葉にアイディア出しからアイディアを形にするまでのプロセスを学びながら、様々なまちづくり活動を行います。	燕市役所地域振興課

②先進事例研究（２）地方×コミュニティ型

燕市
つばめ
若者会議

開始後、次第に「コミュニティ」型としての傾向が強まる。

※つばめ若者会議の資料を引用

多摩市
若者会議

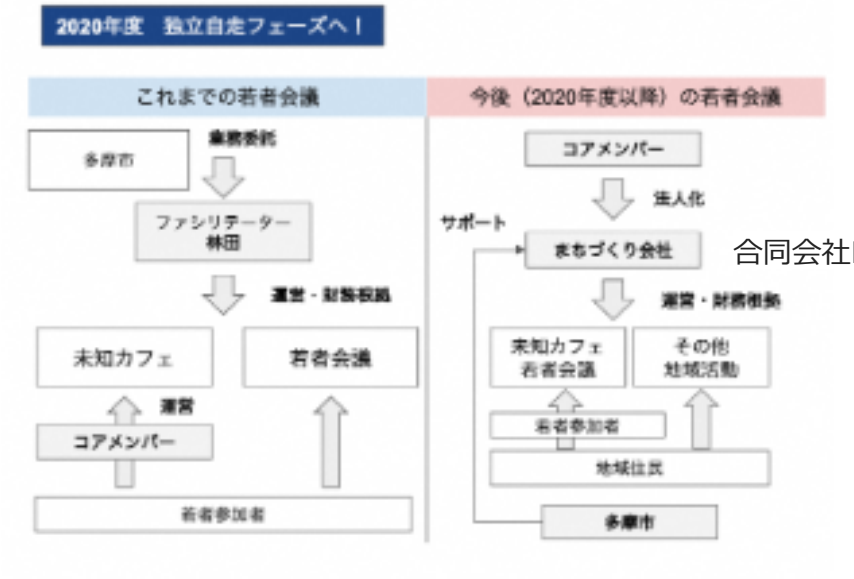
②先進事例研究（３）都市×コミュニティ型

	参加対象	きっかけ	目的	活動内容	主催
多摩市若者会議	参加資格：39歳以下であること 平均年齢27.8歳	若い世代が主体となり、「住んでみたい」、「訪れてみたい」と思えるような魅力 を創出し、発信していくため「多摩市若者会議」を実施。 2017～2019年度は多摩市自身による運営。 2020年度以降自走体制に移行し、多摩市若者会議実行委員メンバーが出資して設立した「合同会社MichiLab」が多摩市から受託し多摩市若者会議を運営しています。	・主に39歳以下の若者（近隣の大学生、社会人が中心。）が一堂に会する場をつくります。 ・参加メンバー同士の対話を通して、多様な知恵を融合させ、これまでにないアイデアを生み出します。 ・アイデアを出して終わりではなく、提案者である若者が自らプロジェクトを企画・立案し、実践していきます。	街の構想について考えるワークを行ったほか、拠点作りが成功して以降はそこを拠点としたカフェの運営やお祭りへの参加、謎解きイベントの実施などをしている。 【受託事業例】 ●多摩市障害者美術作品展（受託後「ぱらあーと多摩市みんなの美術作品展」を 愛称を付け、障がいの有無に関係なく参加できる美術作品展に） ●多摩市子ども・若者ワークショップ ●（仮称）地域委員会構想、諏訪中学区モデルエリア・青陵中学区モデルエリア 「中間支援組織」	主催： 多摩市 運営： 合同会社 MichiLab

多摩市
若者会議

②先進事例研究（３）都市×コミュニティ型

行政主導で始まり、
まちづくり会社を
法人化して
運営移行。



合同会社MichiLab

※多摩市若者会議の資料を引用

②先進事例研究（４）都市×コミュニティ 全年代型

三鷹市
Mitaka
Machikoe!

	参加対象	きっかけ	目的	活動内容	主催
Mitaka Machikoe!(マチコエ)	全年齢	背景：三鷹市基本構想の改正や第５次三鷹市基本計画の策定に向けて、まちの声を聴き、カタチにすることが重視された。 三鷹市では、もともと参加と協働のまちづくりを推進されてきた。 そのような中で、サイレントマジョリティ層の声についても市政に反映できるよう、新たな市民参加の取り組みとして「市民参加でまちづくり協議会」を設立しました。 時期：2021年7月頃活動開始 (2021/7/23:協議会設立準備会実施)	要点：～まちの声を聴き、まちの声をカタチにする～ 詳細：誰一人取り残さない、持続可能で魅力と活力のある地域社会の実現に向け、市民参加の実践によって多様な市民の思いやアイデアを聴き、市民とともに未来のまちのビジョンを描き、三鷹市基本構想の改正や第５次三鷹市基本計画の策定に向けた政策提案に結実させることを協議会の活動の目的とする。	◆活動イメージ ①興味のあるテーマの部会に参加する →部会は7つある(快適な,活力のある,安全な, 安心な,子どもが輝く,心ゆたかな,ふれあいの)まちづくり部会 ②共通のテーマのチームを編成する ③テーマ（政策課題）を設定する ④実践ロードマップ・企画案を作成する ⑤市民参加を実践する ⑥チームの提案をまとめる ⑦まちづくりアイデア集（政策提案）を作成する	市民参加でまちづくり協議会 (三鷹市が設置)

②先進事例研究（４）都市×コミュニティ 全年代型

まちの声をカタチにする全年代対象施策

三鷹市
Mitaka
Machikoe!

Machikoe(マチコエ)って?

まちの声を聴き、声をカタチにする団体。

「まちづくりって、お役所の人たちだけができることだよね?」
「市民の意見なんて、小さすぎて聞いてもらえない…」
そう、思っていませんか?

私たち三鷹市は、市民のみなさんに
「これからも住み続けたい!」と思ってもらえるような、
みなさんに寄り添ったまちづくりをしたい、と思っています。

市民のみなさんと共に、さらに素敵なまちを作っていくために
みなさんの声を、市政に反映できるような機会をつくりました。
それが「Machikoe(マチコエ)」です!

「私たちのまち、こんなところがこうなったら良いのにな」
「こうしたらもっと良いまちになるんじゃないかな?」

※三鷹市Mitaka Machikoe!の資料を引用

②先進事例研究（５）都市×議会＋コミュニティ型

尼崎市
ユースカウンシル事業
Up to You!

	参加対象	きっかけ	目的	活動内容	主催
ユースカウンシル事業Up to You！	・おおむね14歳~29歳 ・尼崎市内在住、在学または在勤 ・募集人数はおおむね20名程度。応募多数の場合は抽選で選定。	時期：2021年活動開始（０期生） ※青少年センター時代の課題は「小学生の利用が多く、中高生の居場所がないこと」「公的な施設だけど誰も知らないこと」だった。 中高生の居場所としてのユース交流センターが出来た。	●ユースカウンシル事業：若者が自分で自分たちのまちを作るために地域や社会に提言・アクションをしていく取り組み。 ●Up tp You！のビジョン「若者がきがねなく社会に参画できるまち」 メンバーがそれぞれ役割と個人プロジェクトを持ちビジョンに向かって行動するチーム。	●Up to You!の取り組み 若者のみんなが直面する課題やその解決策を尼崎市に提案していくプログラム。 公共は常に「私」発！ということに重きを置いていて、各個人が「私」に近い課題をテーマにして活動している。（例：てんかんを持つ子がてんかんを啓蒙する活動・スケボーが好きな子がスケボーパークを作る・ヤンケアラーや虐待当事者による提案）	主催：尼崎市　こども青少年局 こども青少年部 青少年課 尼崎ユースコンソーシアムが指定管理者として尼崎市立ユース交流センターを運営。 そのユース交流センターの中の事業の1つがユースカウンシル事業。 ※尼崎ユースコンソーシアム（4つの団体から構成された団体） ・特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティー ・一般社団法人ポノポノプレイス ・特定非営利活動法人み・らいず ・特定非営利活動法人こうべユースネット

②先進事例研究（５）都市×議会＋コミュニティ型

尼崎市
ユースカウンシル事業
Up to You!

尼崎市立ユース交流センター
片岡センター長（９／１８登壇）

尼崎市教育委員会教育次長
能島裕介さん（１１／２０登壇）

②先進事例研究　まとめ

1．目的：中野区では何を目的とするか？
　　誰のための場であるべきか？

中野区基本構想と関連づけながら
目的の点検が必要。

2．形式：中野区らしい形式は
　　「議会型」か「コミュニティ型」か？

特に東京23区では前例がないので、
都市型モデルとしての構築が重要。

3．年代：「若者会議」は「ハイティーン会議」と
　　どう関わるべきか？

ハイティーン会議と関連づけながら
対象層の点検が必要。

③中野研究（１）　中野若者会議の方向性

中野区　基本構想（令和3年3月23日改定）

10年後に目指すまちの姿：中野区に住むすべての人々や、このまちで働き、学び、活動する人々にとって、平和で、より豊かな暮らしを実現するために、私たちは、次のことを大切にします。

○　中野の最大の財産は人であり、すべての人の人権と、あらゆる生き方、個性や価値観を尊重します。
○　人と人との交流やつながりを広げ、誰一人取り残されることのない安心できる地域社会を築きます。
○　互いに力を合わせる協働と、新たな価値を創造する協創を深めます。
○　一人ひとりが豊かな人生を歩むための新たなチャレンジを応援します。

このことを私たちは大切にし、10年後に目指すまちの姿を描きます。「つながる　はじまる　なかの」

(4)未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち
子どもたちは、未来に向けて、チャレンジしながら成長しています。子育て家庭は、地域社会に支えられ、安心して子育てをしています。子どもの育ちを、未来の希望として、地域全体で支えるまちを築いていきます。

○　若者のチャレンジを支援します
若者は、幅広い交流や様々な活動の機会などを通じて、チャレンジしながら成長しています。一人ひとりの課題の解決に向けて支える体制が整っています。

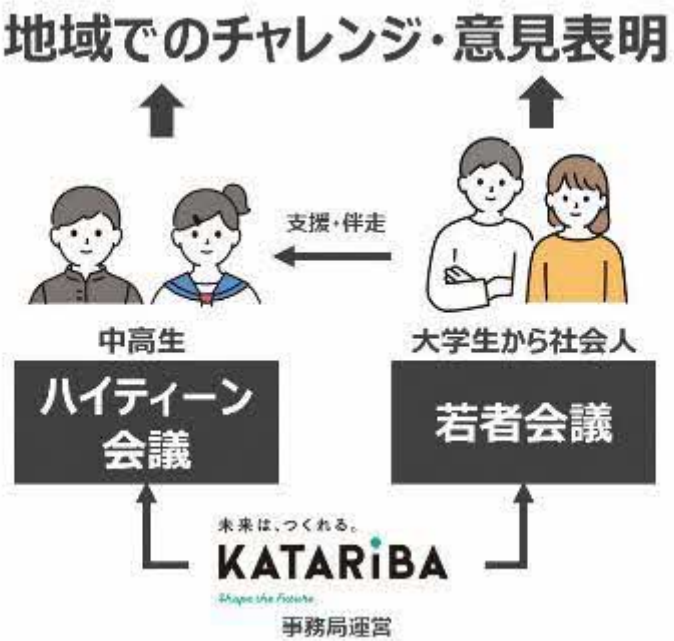
③中野研究（１）　中野若者会議の方向性

■目的・概要

大学生・社会人の視点を地域づくりにつなげるために、中野区ではどのようなアクションが必要なのでしょうか。
「若者会議」は、若者ならではの視点を区政や地域に生かすとともに、若者と地域のつながりを構築していくためのプロジェクトです。
令和4年度は、ワークショップや調査を通じて、今後の若者会議のあり方を検討します。また、中高生事業である「ハイティーン会議」のサポート役として、中高生と共に地域へのフィールドワーク等も行います。

■ポイント

①ハイティーン会議と連動した活動
②次年度以降のあり方を提言
③上記①～②を役割分担
④事務局をNPOが担う



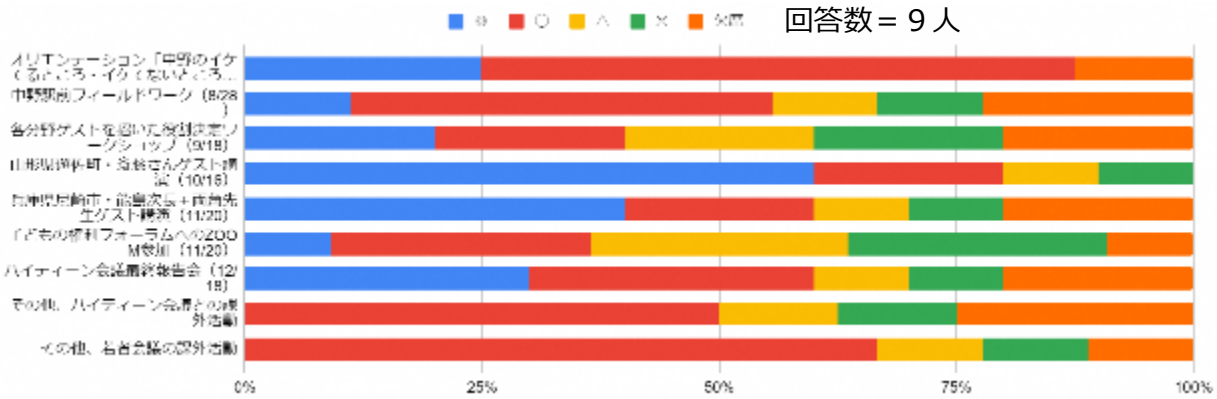
③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■今年度の振り返り

・最もポジティブ（◎〇）だったのは
　初回オリエンテーション。

・最も好評（◎）だったのは、
　斎藤さん（遊佐町）のゲスト講演。

・ネガティブ（△×）だったのは
　役割決定ワークショップと
　子どもの権利フォーラム参加。



③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■今年度の振り返り（良かった点①）

①他地域のゲスト講演
・他の地域の取り組み事例を知ることができた
・他の地域で活動される方のお話を聞けたこと。地域と若者の関係への理解が深まって、これからの中野に落とし込んで考えたいと思った。
・多くのゲストの方から有意義な話を聞けた
・「そもそも若者会議とは」「中高生の活動支援」などについて、他地域の例も見ながら順を追って説明があったので、自分のようにこうした取り組みに無知な人にも取り組みの方向性などが見えやすかった。

②中高生との活動について
・中野区の取り組みを少し理解することができた
・中高生の考えを少し知ることができた

③最終プレゼンテーションについて
・区長にハイティーンの方々がプレゼンをしたところ。
・チャレンジがそれぞれ発表まで出来た点。中高生と大人が一緒に活動した点。時間が少ない中、深い議論がなされていた点。
・意見交換だけでなく、何かしら実行したことを区長へ報告をできた点です。
　（昨年度も継続参加した中高生に感想を聞いたところそのように言っていました）

③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■今年度の振り返り（良かった点②）

④場について

・若者という繋がりができたこと。様々な年齢、キャリアの方々と知り合えたことで参加のモチベーションも上がったし今後に期待する気持ちも大きくなった。
・運営が、課外活動としてピクニックを提案してくれたところ。良くも悪くもあの提案がなかったら、協働という感覚の薄い淡白な事業になっていたと思う。（あの感じが嫌な人もいると思うけれど、地域活動なんだし堅苦しくてもつまらないので私は歓迎でした）
・少人数のグループ構成でコミュニケーションが取りやすかった。
・運営のカタリバさんの会議の「場」の話しやすさの雰囲気作りが良かったです。（話が行き詰ったときの打開する一押しの言葉がけや、ファシリテーションが素晴らしいと思いました）

⑤募集について

・参加する人を選抜するのではなく、幅広い人に参加できるように募集をしていたところが良かったです。（多様性を大切にすることで、思いがけない組み合わせや発想が生まれると思います。）"

⑥中野区への理解について

・前半は純粋に中野区のことが知れて楽しかったです笑

③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■今年度の振り返り（課題点①）

①募集内容とのギャップ

・若者会議の募集時に、メインの活動内容がハイティーンのサポートになることが明確になっていなかった点。私が話した範囲では、約5人全員自分たちがメインで活動をすることになると思って応募していました。サポートかメインかではマインドセットがずいぶん違うため、次回は募集時に明確化が必要だと思います。次回も同じ活動内容にするなら、ハイティーンメンター募集、という風に名称変更したら誤解は生まれないと思います。

・決められた会議以外の活動についても、募集時に明確化しておいてほしいです。強制ではなくできる範囲でokな点も明記しておくと良いと思います。

②プログラム全体像のわかりづらさ

・7/31と8/28で「良くない」を選択した理由は、自分が何をしているのか良く理解できておらず、やらされ感が強くなっていたから。内容の良し悪しではなく、理解が足りていなかった。（多分、説明も不足していたと思う）
・9/18で全体像を示されたあとは、プログラムへの理解が進み、以降の各回は取り組む意義なども自分なりに解釈しながら進められた。

③議論の受け止めについて

・参考にします。で話が終わらさせたこと。

③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■今年度の振り返り（課題点②）

④モチベーション差や負担感

・地域活動に対して、それなりに勉強したり、実現したい目的がある人でないと「なんとなく作業して、なんとなく時間がすぎていく」だけになってしまうかなとおもいました

・モチベーションの維持、優先順位のつけ方、責任の重さ（自分自身も中高生もモチベーションが低く停滞してしまうときがありました。自発的に参加しているので、仕事だったり学校の部活優先をする都合上、強制力がないので責任も軽くなりがちなのが課題だと感じました）

・自分の反省ですが、どうしても「月に１度、地域の話を聞きに行く」みたいな姿勢になることがありました。若者会議の取り組みが日常の延長にもあるような、能動的な姿勢で取り組めばよかったなと。
企画されている方もいらっしゃいましたし、ご時世的に難しいかもしれませんが、物理的にもう少し活動回数があってもよかったのかなと。

⑤取組内容のバリエーション

・取り組む内容が「中野区の魅力PR」や「住んでいて不便さを解消させる問題解決」に集約してきてしまうところです。（これは改善して欲しいとかではなく課題というより感想ですが、ハイティーン会議や若者会議は中野区の事業の一つなので、目標や目的の行き先は、人を集める町興し的なものや区の財政をもっと潤すにはどうするかの事業をするなどになるのではないかなと感想として思いました）

③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■今年度の振り返り（課題点③）

⑥チームを越えたつながり

・チーム外の人との関わりが薄かった。メンターが相談し合える場が機能しなかった。他のチームが今どんなことをしているのか見えにくかった。メンター側から構想チームのことを知る機会が少なすぎた。
オンライン等も活用しながら、もう少し高頻度（2週間に1回など）に活動できると良かった
・交流する人が同じチーム内の人ばかりになってしまったところです。（中高生同士や若者同士の横のつながりの構築が薄く感じました）
・（1、2回を欠席しているからかもしれませんが）若者同士の横のつながりを作る時間が少なかった。構想班の件と合わせて、ディスカッションの時間を増やし、交流が生まれやすいようにすれば良いのではないかと思った。

⑦構想チームとのつながり

・3つの班に分ける必要は無く、特に構想関連は全体で議論するべき内容だったのではと思う。班分けの回で今後その分類がどう作用してくるのかが不明瞭で、私自身構想にも関わりたいと思っていたため、その機会が思ったよりも少なかったと感じた。
・ハイティーン会議サポートチームに所属している人から見て、若者会議構想チームの活動が見えてこないのが課題に思いました。（前記の内容に少し重複になってしまいますが）

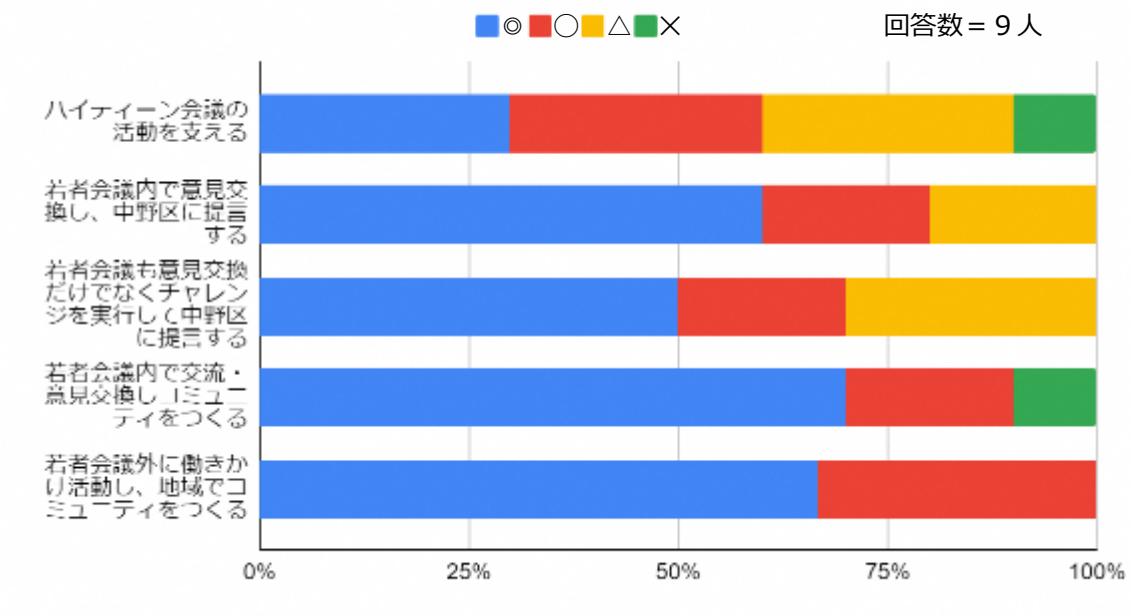
③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■若者会議の目的

・全項目において60%以上が
ポジティブに◎〇を回答。

・◎だけで比較すると、
「ハイティーン会議を支える」が30%と
負担感を懸念する声が見られた。

・次いで、◎〇の合計で比較すると
「若者会議もチャレンジを実行」は60%と
負担感を懸念する声が見られた。



③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■若者会議の目的①

①目的は変えなくて良い
・目的は今年の内容のまま継続でよいと思います：若者ならではの視点を区政や地域に生かすとともに、若者と地域のつながりを構築していくためのプロジェクト
・目的は変えなくてよいとおもいます
・区政にない目線や手段で中野に貢献する、ということが一番の目的だと思う。

②テーマを設けた方が良い
・住みやすい街づくり（次世代の若者や子供たちが生きていくのに生きやすい環境を作る）
・教育の場（若者会議ではなくハイティーン会議の目的ですが、中高生にとって親や学校の先生以外の大人に関わる機会や学校という枠に留まらずチャレンジできる場所）
・将来どう自走させていくかなど、中長期的な計画を立てる。
・一体感をうむような全体で何か1つの取り組みをしてみる。

③他自治体の検討と反映は続けたほうがよい
・他の地方自治体が先行して実施している若者会議の事例研究と反映（今年度の話を聞いたりする活動内容を継続して欲しいです。ユースセンターなどの言葉を初めて聞いたり気付きが多かったです）

③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■若者会議の目的②

④入り口としての役割にすべき

・この取り組みを知らない・興味がない人も多いと思うので、「何かおもしろそうなことをやっている」「自分の意見が中野区に反映されるかも…」みたい認知されれば、若者会議に参加していない人からもいろんな意見が出る気がします。
そのような“区民のなんでも相談所”的な役割があってもいいのかなと。

・人と人との繋がりを持たせ、より強い紐帯に仕上げること。

・目的を「①若者が政策提言をする場」ではなく「②若者が区政に興味・関心を持つ入り口的な役割」にした方が良いと感じた。①だと区政に関心がある人がターゲットになるが、②にすることで地域に関わってみたい人が集まりやすくなると思う。（今年度は実際、②の人の方が多い印象を受けた。良くも悪くも、中野区はそういうステージにあると思う。まずはターゲットを②に設定して、若年層にまちづくりへの興味・関心を持ってもらうところからのスタートかなと。）
・そのためにも、実施内容は今年度ハイティーン会議のようなプロジェクト型にして、一つ一つのプロジェクトにある程度の予算をつけてもらえるといいと思う。（新城市のように、次年度予算の活用方法を検討するよりも、その年度に集まった若者たちで、その事業年度の予算を活用してプロジェクトを推進するイメージ）

・地域の若者たちで集まり、イベントを開いたり、まちのPR媒体を作成したりして、若者がまちづくりに対して自由な発想で好きに取り組むことができる事業となれば、参加意欲を持つ若者はもっと増えると思う。

③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■若者会議の目的③

⑤若者会議が旗振り役となる
・複数のプロジェクトを実行して、その旗振り役を若者会議のメンバーが担えるような形になればいいと思う。

⑥区政への反映
・最終的には、この事業を通じて地域に関心を持った若者達が、然るべき手段（パブコメ・意識調査・タウンミーティング・選挙出馬・区議への陳情など）で若者施策を提言するようになったら良いと思う。

・政治に意見を反映させる（選挙とはまた違う一市民として感じる生の声や意見を行政に届けられる場）

③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■「若者会議」と「ハイティーン会議」の関係性①

①協働する

・メンターとしての関わりは続けていいと思う。ハイティーンと区政の間にいる若者だからこそユースワーカーとしての働きができると思う。

・初回ということもあるだろうが現状一つ一つのチャレンジが重く、若者がリーダーシップを取らなければならない場面が多かったように感じる。リーダーの決定に時間をかけて会議内でチャレンジの解像度を上げる、初回の開催時期を早めて余裕を持たせるなど、もう少しハイティーンを主導に若者が伴走できる仕組みを整えるべきだと思う。

・今年度と同じで良いと思うが、メンターとしての負担を分散させる方法も考える必要があると思う。

・中高生主体で若者がサポートするという現状でいいと思います。ただ、今回参加して思ったのは、いまの中高生ってめちゃめちゃ忙しいんだなと。そういう時に若者と作業を分担して、作業が「中高生待ち」にならないようにすると、
中高生の心理的にもやりやすい気がします。

・目的に対して対等な関係であるように、ハイティーンともっと対面での対話&議論を重視すべきだったのかなと思いました。わたしのチームだけだったのかもしれないですが、先生(指示をする人)と生徒(指示を受ける人)のような関係になってしまって、ハイティーンの意見が反映されたものなのかな？と少し不安になってしまいました。

③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■「若者会議」と「ハイティーン会議」の関係性②

②分離する

・一案です。例えば、ハイティーンと若者会議は別々に実施し、それぞれがメインで中野区について考える。全く別のプロジェクトになってしまうと勿体無いので、情報共有の機会を定期的に設けてお互いにコメントし合う、なども良いと思います。

・ハイティーン会議の目的は、区政に提言を届けることよりもハイティーンの成長にあると考えている。チャレンジという括りで若者会議と一緒にするとそこがブレてしまうので、チャレンジの形で活動を続けるなら若者主導とハイティーン主導のものは棲み分けが必要だと思う。

・「若者会議」に参加されてる方皆さん主体的で能力もある方だったので、メンターという形でもいいが、全く別の活動をするのでも良いかと思う

・「若者会議」と「ハイティーン会議」は個別のもので設けた方が良いのではと思いました。もし今年度と次年度を同じ体制で行うとしたら、ハイティーン会議のサポートは負担が少しあると感じ、若者会議参加者のメンターのマンパワーをもう少し下げられる運営をできた方が若者会議参加者としては助かりますし、望ましいなと思いました。

③中野研究（２）　若者会議メンバーの声

■「若者会議」と「ハイティーン会議」の関係性②

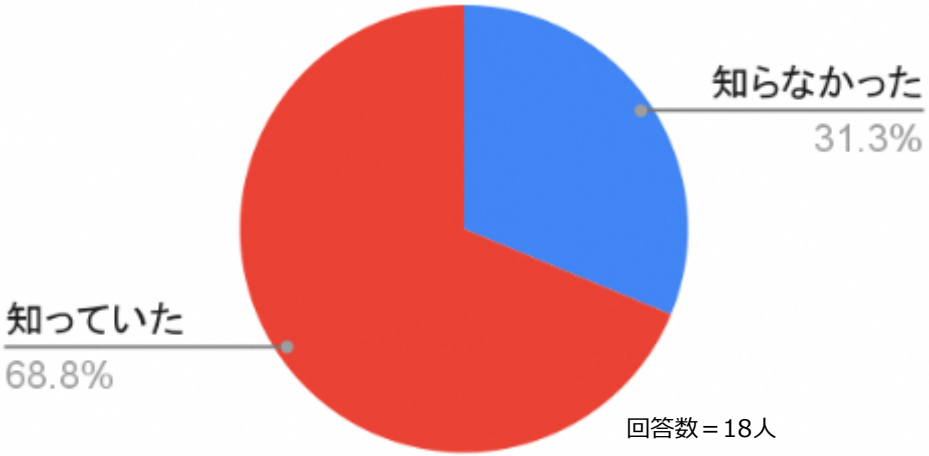
③中間

・若者・ハイティーンは別々にプロジェクトを進めて、合同で中間報告会や意見交換会を行うと良いと思う。

・若者・ハイティーンが互いのプロジェクトに意見を出し合っていく中で、メンターやサポートメンバーに誘い合ったりといった交流が生じると良いと思う。

・今年度のハイティーンを見ていると、メンターを勝手に割り当ててもらったことで、主体性を発揮しなくても何とかゴールまでいけるだろうという姿が見てとれた。合同で報告会を開くことで、ハイティーンには「この人にメンターになってもらいたい」「この人からプロジェクトのアドバイスをもらいたい」と、若者と関わることにも主体性を発揮してもらいたい。若者も、その方が一緒に活動して楽しいと思う。

③中野研究（３）　若者会議の認知度



③中野研究（４）
一般からの期待

■若者会議の内容

①◎だけで比較して期待の高いもの

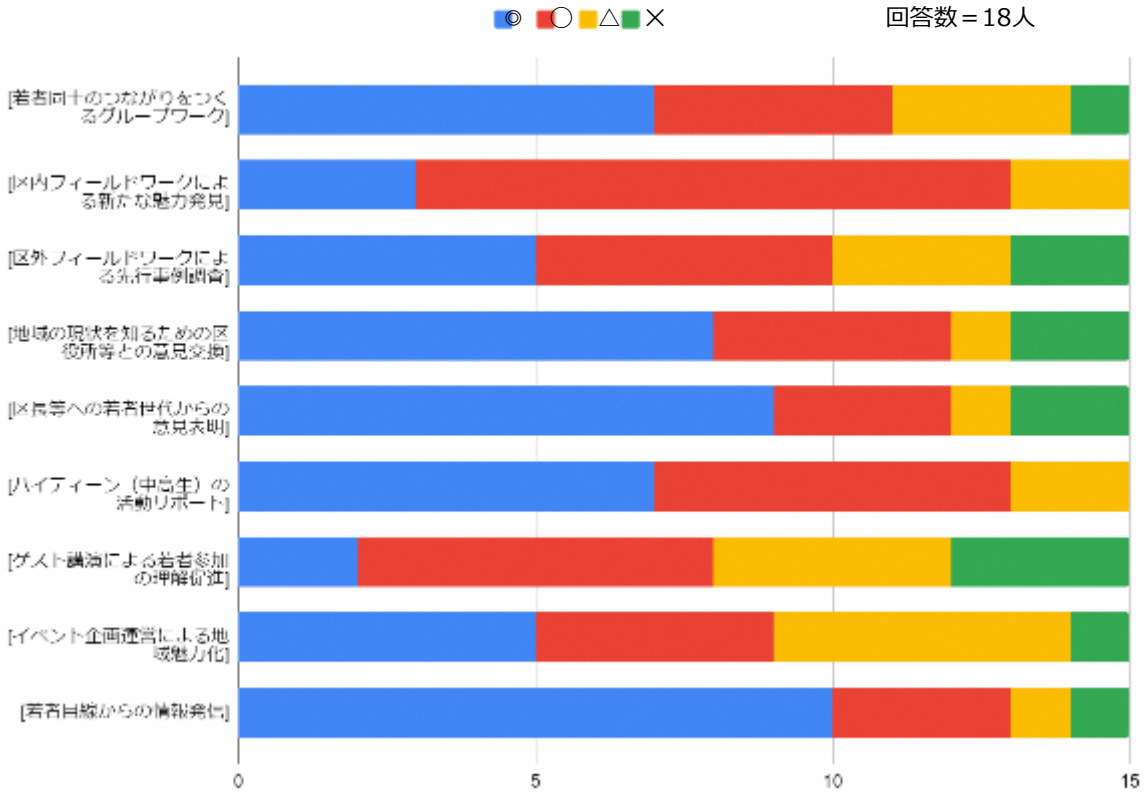
・若者目線からの情報発信
・区長や区役所との意見交換・表明

②◎◯で比較して期待の高いもの

・若者目線からの情報発信
・区内の魅力発見
・ハイティーン会議の活動サポート

③期待の低いもの

・ゲスト講演
・イベント企画運営



④中野区モデル「若者会議」構想のポイント

1．若者世代の流動性が高い都市型の地域性をいかに活かすか？

2．学生世代・独身世代・子育て世代・外国人、若者世代内の分断をいかにつなげるか？

3．中野ハイティーン会議および中野区「子どもの権利条例」をいかに活かすか？

×

1．目的
誰のための場か？

2．形式
「議会型」か
「コミュニティ型」か

3．年代
「若者会議」と
「ハイティーン会議」

④中野区モデル「若者会議」構想のポイント

1．若者世代の流動性が高い都市型の地域性をいかに活かすか？

- 地元ではないけど中野が好き！もっと知りたい！何かしたい！
- 地域に「若者」の受け皿がない（切り離されている）
- 区が実施している意見募集に気づかない、関心があっても意見を出すのはハードルが高い

若者のモチベーション「あったらいいな」「変えたい」を活かす場を行政がデザインすることが求められている

同じ思いをもつ若者と出会う場
行政との距離を縮めるきっかけをつくる

④中野区モデル「若者会議」構想のポイント

2．学生世代・独身世代・子育て世代・外国人、若者世代内の分断をいかにつなげるか？

- コロナ禍で学生世代は地域に居場所を求めている
- 子育て世代は嫌でも行政とつながるが、区外へ引っ越してしまう
- 学業・仕事・家庭と若者会議の両立活動は負荷が高い

サードプレイス（コミュニティ形成の場）として、若者世代内の交流、若者と地域をつなぐことで、もっと中野を好きになる＝住み続けたい中野になる？

入り口は低く！話し合いorプロジェクト、どちらでも良い。意識高い系だけが集まる場所にしたくはない。「会議」という名称は微妙？

④中野区モデル「若者会議」構想のポイント

３．中野ハイティーン会議および中野区「子どもの権利条例」をいかに活かすか？

- 「子どもの権利条例」に基づき「提言の機会」及び「フィードバック」を求めたい
- 中高生だから刺さる、地元企業に熱烈に応援してもらえる
- 若者がメンターとして中高生のサポートすること、ともにチャレンジに取り組むことは双方にとってメリット

「中高生」のための会議体があることに意味がある。若者会議の一部とするなどの対等な関係となる形・名称が必要。

⑤中野区モデル「若者会議」構想ワークショップ

中野
区内
調査

×

先進
事例
調査

これまでの調査を踏まえ、
ワークショップを行いました。

若者会議での議論

⑤中野区モデル「若者会議」構想ワークショップ

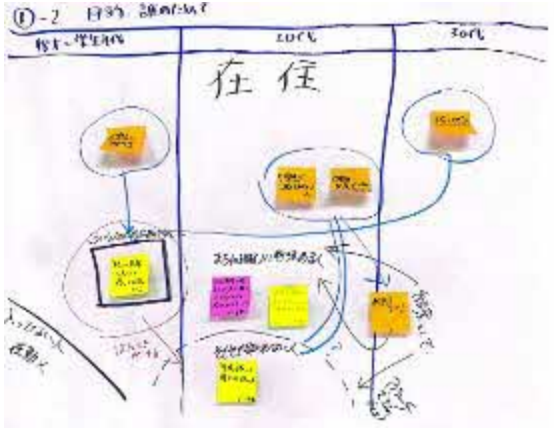
1．若者会議の目的はどうあるべきか？
誰のための場であるべきか？

ポイント

①中野区基本構想「若者のチャレンジを支援します」とのつながり
※原文：若者は、幅広い交流や様々な活動の機会などを通じて、チャレンジしながら
成長しています。一人ひとりの課題の解決に向けて支える体制が整っています。

②学生、子育て世代、単身者、上京者など、中野区の若者（18歳～おおむね39歳）
の実情は多様であり、流動性が高いです。誰のための場であるべきなのでしょうか？

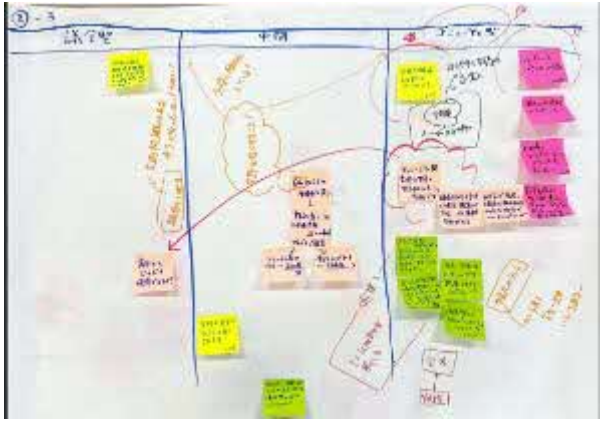
③行政が実施する意義は何なのでしょうか？



⑤中野区モデル「若者会議」構想ワークショップ

2．どんな場であるべきか。
「議会」型か？「コミュニティ」型か？

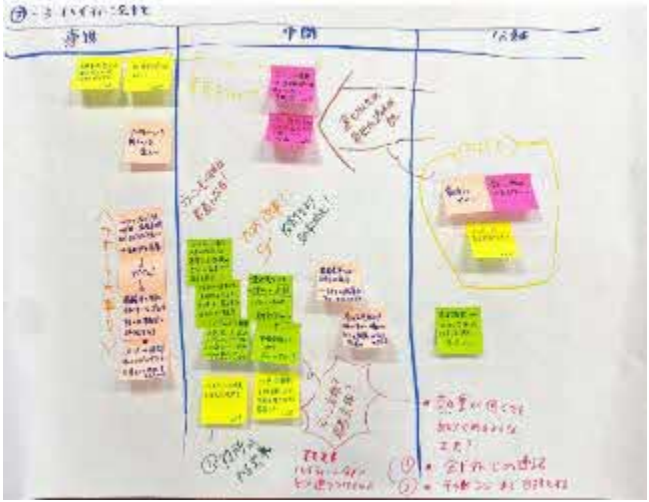
ポイント
①中野らしい実施目的や、若者のあり方に沿うのはどちらか？
②若者には選挙権があり、若者会議がなくても
　区のまちづくりに参加はできます。
③目的に応じて、選択すべき形式は異なります。



⑤中野区モデル「若者会議」構想ワークショップ

3．ハイティーン会議とどう関わるか？

ポイント
①ハイティーン会議との棲み分けや、役割分担や、協働をどうデザインするか
②ハイティーン会議の存在および「子どもの権利条例」は中野区らしい財産
③今年度は、ハイティーンの支援には負担もあり、簡単ではなかった



⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

中野区基本構想「若者のチャレンジを支援します」
若者は、幅広い交流や様々な活動の機会などを通じて、
チャレンジしながら成長しています。
一人ひとりの課題の解決に向けて支える体制が整っています。

基本構想実現のために必要な若者会議のあり方を、
５つのポイントで提言します。

⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

中野区モデル
若者会議とは、

①．まちを知る「入り口」です。

②．まちとつながる「サードプレイス」です。

③．まちで「チャレンジ」できる機会です。

④．まちに「若者の声」を届ける場です。

⑤．まちの中高生の応援者です。

⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

イラスト：けいちゃん

若者会議が
若者×**まち**の
ハブになります。

① 知る → ② つながる → ③ チャレンジする → ④声をとどける

⑤中高生を応援する

⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

提言①．まちを知る「入り口」です。

課題：中野区の「若者」の実情は多様で、バラバラ。

区内を地元とする若者	区外からの転入者や上京学生	区外から通学・通勤する若者	地域を自覚し始めた子育て世代	増加する外国人

若者がはじめて地域を知り、お互いを知り、つながる、「入り口」となりうる場をつくる。

⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

提言①．まちを知る「入り口」です。

具現化のアイディア

①「若者会議」に愛称を設けるなど、「会議」という先入観にとらわれず
気軽に参加できるイメージを醸成する。

②年間通じて参加するコアメンバーのための
クローズドな回だけではなく、
若者ならば誰でも気軽に単発で参加できるオープンな回を設ける。

③認知度が低いので広報を改善。若者会議メンバーもアンバサダーとして広報する。

④大学生、外国人など、参加しにくい層を招待するなどの広報アプローチ。

⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

提言②．まちとつながる「サードプレイス」です。

課題：中野区の「若者」は忙しい。地域に目を向ける余裕がない。

学業が
忙しい

仕事が
忙しい

子育てが
忙しい

家族の世話
が忙しい

日常からちょっと離れて、まちと安心してつながる
サードプレイス＝居場所をつくる。

⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

提言②．まちとつながる「サードプレイス」です。

具現化のアイディア

①お互いを尊重できる安心・安全な場としてファシリテーションする。

②レクリエーションなどの気軽なプログラムも設ける。

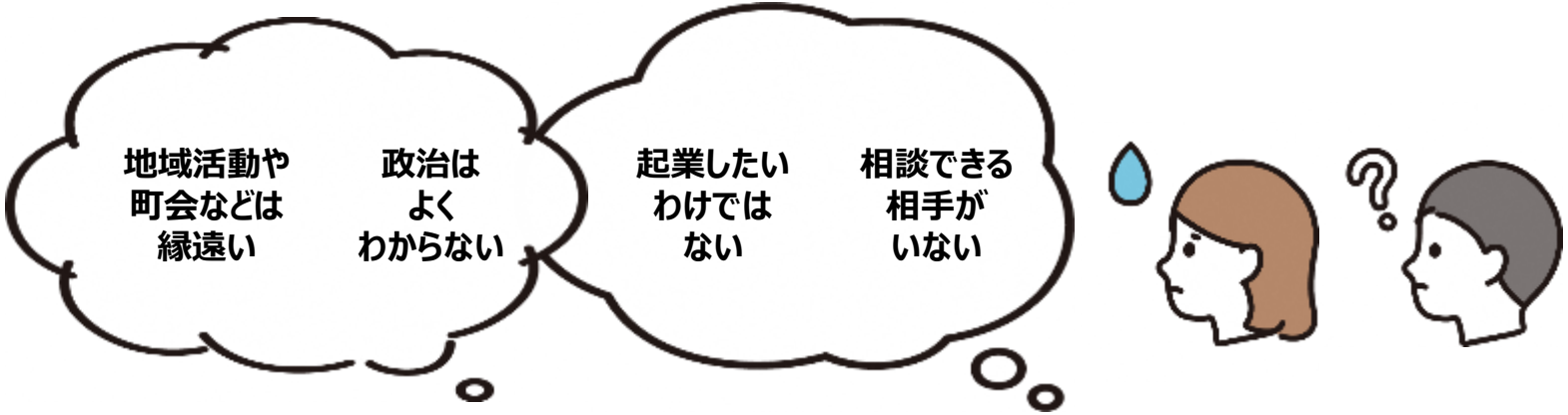
③忙しい方にとっては、役割や負担を背負わなくても参加できるよう
役割分担や参加スタイルを選べる場にする。

④公式のプログラムのみならず、参加者主体の課外プログラムが
生まれる仕組みをつくる。

⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

提言③．まちで「チャレンジ」できる機会です。

課題：まちに貢献したいけれど、どうしたらいいかわからない



チャレンジしたい若者を応援する
場とサポート体制をつくる。

⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

提言③．まちで「チャレンジ」できる機会です。

具現化のアイディア

①若者のアイディアを引き出し、形にする場をつくる。

②若者と行政が協働して、チャレンジを実現する。

③若者が担い手となるプロジェクトの経費を補助する。

④若者の活動を区のメディアで発信する。

⑤失敗しても大丈夫。セーフティネットとして行政がサポートする。

⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

提言④．まちに「若者の声」を届ける場です。

課題：若者の投票率は低く、声が届きにくい。

若者の声に耳を傾け、キャッチするための場と仕組みをつくる。

⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

提言④．まちに「若者の声」を届ける場です。

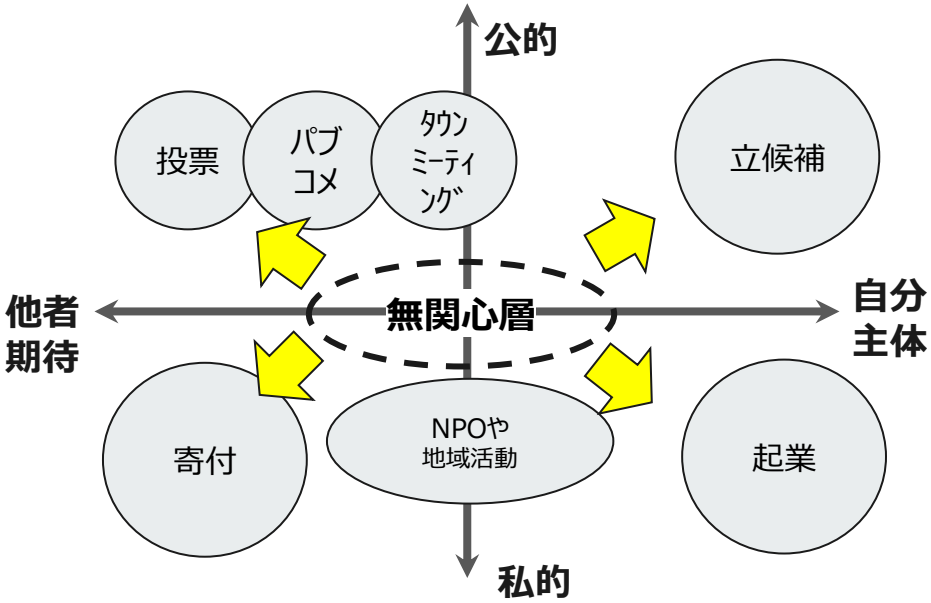
具現化のアイディア

①若者のコミュニティに
自然と本音の声が集まる
よう場づくりする。

②若者の声が行政プロセスに
反映されるため、仕組みを設ける。

③区側の政策課題を予め提示して
ワークショップを行う場合もよい。

④若者の声を拾い、届ける、
アンバサダー役として活動。



⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

提言⑤．まちの中高生の応援者です。

課題：ハイティーンのための仕組みを活かすには？

■中野区の魅力
①ハイティーン会議
②中野区子どもの権利に関する条例

若者との交流・伴走を通して、
ハイティーンの主体性は高まる。

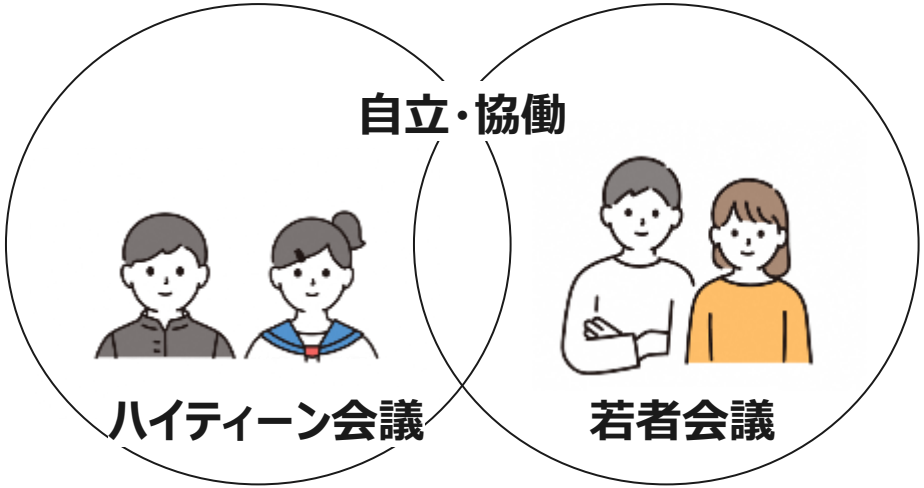
⑥中野区モデル「若者会議」５つの提言

提言⑤．まちの中高生の応援者です。

具現化のアイディア

①お互いが交流する
機会を設けることで
双方の活動に相乗効果が
生まれる。

②若者会議から希望者を募り
ハイティーン会議の
メンターとして伴走する。



⑦中野区モデル「若者会議」の実現の中期ステップ

しかし中野若者会議はまだ０歳です。
あせらず、ひとつひとつ実現していきましょう。

・提言①～④は、取り組む優先順位です。
　複数年度をかけて実現していきましょう。

① 知る → ② つながる → ③ チャレンジする → ④声をとどける

・提言⑤は、ハイティーン会議との連携スタイルを
　毎年試行しながら改善する課題です。
　応援されたハイティーンはやがて、若者へと成長してまちに貢献します。

⑦中野区モデル「若者会議」の実現の中期ステップ

若者会議の成功が好循環を生みます。

みんなが暮らしやすいまちへ

若者×まちがつながる

若者の暮らしやすさ向上
定住・定着の促進
転入の増加

若者のシビックプライド醸成
若者の声が行政に届く

おわりに

若者×まち＝新しい中野の可能性！

文責：若者会議１期メンバー